

「稲魂文化の宗教性—ハニ族のフィールド調査から—」【サマリー】

欠 端 實

稲の生命力に感嘆した筆者は、稲作を開始したハニ族も古代の日本人も同様の経験から、稲に対する宗教性を看取したのではないかと考え、両者の稲作文化を宗教性という観点から比較してみた。

稲の生命力を通じて「神としての稲」という考えを持つようになり、やがて自分たちのいのちが稲に支えられていることから、人間と稲の同祖性を感じるようになった。そして稲には稲魂が宿ると考え、新嘗の日には鄭重に稲魂を迎え、稲魂を祀り、新米を食べ稲魂を継承しようとした。日本の天皇は稲魂を祀る祭祀王としての性格を有している。これらの点が雲南省のハニ族と共通するということができよう。